

## 令和5年度 学校関係者評価（後期） 学校自己評価の結果について

### 【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。（A:とても思う B:思う C:あまり思わない D:まったく思わない）

### 【2】全体的な傾向

児童・保護者・職員とも、肯定的評価の割合が多く満足できる状態だと言えます。しかし、前期の児童・職員の学校評価と比較しますと、項目によっては若干その割合が減少しているものもあり、取組を再度検討する必要性を示唆しています。

#### 〈児童において〉

【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、17項目中15項目であり、その内、2項目で100%、10項目で90%以上の肯定的評価で、全体的には良好な結果が得られています。しかし、2項目「⑥わたしは、無言清掃をしている。」「⑩わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」においては、肯定的評価が79%と、80%を下回っています。この2項目については、改善に向けた他取り組みが必要な項目です。

また、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が比較的高かったのは、「⑧わたしは、家の人に学校のようすを話している。」「わたしは、本を読んでいる。」「⑯わたしは、早寝早起きをしている。」の3項目です。さらに【D】評価だけに焦点を当ててみると、半数弱の項目に【D】評価が見られる結果となっているが、前期と比較すると、【D】評価のあった項目は減少傾向にあるといえます。

#### 〈保護者において〉

12項目中11項目で【A】【B】の合計が80%を超えています。さらに、その内8項目が90%を超える肯定的な評価になっており、満足できる状況にあると判断できます。昨年度の調査で気がかりであった、【E】「わからない」という回答ですが、増加しています。特に「⑤学校には、お子さんのことで相談できる友だちがいますか。」では、【E】「わからない」という回答が目立ちました。当事者か否かで「わからない」という状況が生まれてしまうことがわかります。お子さんの理解を深めるために、学校としても手立てを考えていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。前期同様、「⑫ご家庭では、家族で互いにあいさつをするようにしていますか。」の項目で100%の肯定的評価を得られています。

#### 〈職員において〉

24項目中22項目で【A】【B】評価の合計が90%以上の割合になっています。その内【A】評価だけで80%以上のものは8項目にのぼり、「十分できている」と評価できるといえます。また、否定的評価に目を向けると、前期と比べ【C】評価の回答は変わりませんが、自由記述を見てみると、さらに良いものを目指すための前向きな意見が書かれています。自分に厳しい評価となっているといえます。これらを総合的に判断すると、全体的に比較的良好な状況にあるといえます。

### 【3】個別の分析

#### (1)【確かな学力】にかかわって

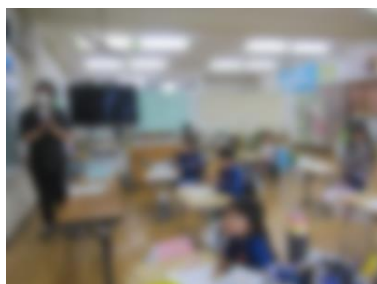
学校の主となる教育活動の学習指導について、本校の教職員は授業を大切に考え児童に内容の理解が深まるように努めていることが、教職員の自己評価の結果から推察されます。GIGA スクール構想により、全児童に端末が貸与されている現在、ICT を活用した実践を進めることが求められています。しかし、ICT 活用のための教材が少ないことが課題としてあげられています。児童の学力向上のため、設備を整えていきたいと考えます。児童の結果にもあるように、ほとんどの児童が学習内容を理解できていると判断しています。今後は、児童の結果から課題となる「自分の考えを伝えることができる。」ことを改善できるような授業を仕組んでいききたいと思います。そして、今日的教育課題「個別最適化」「学び合い」の充実に尽力していきたいと思ひます。



児童の回答結果を見てみますと、「わたしは、学校の授業がわかる。」の結果を見ると、99%の児童が日々の学習を理解している様子がわかります。ほぼ 100%に近い結果であります。これは「わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果を反映しているものだと考えられます。「聞くこと」が理解に繋がっている結果を表しています。しかし、「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」では、80%を下回っています。詳しく結果を考察していくと、高学年になるにつれ自分の考えを伝えるようになってきています。本校では「学び合い」を研究主題としています。ペアやグループ活動において、お互いの意見を交換し合ったり伝え合ったり、また教えあったりする機会をさらに増やしていく必要があります。また、ICT を有効活用することで、「伝え合う」学習を充実させていきたいと考えます。【C】評価する児童は1名のみであり、このことは、個にあった丁寧な指導を行ってきた結果だと考えます。今後も、指導する職員の数は限られていますが、厳しい中でも有効な手立てを探していきたいと思ひます。

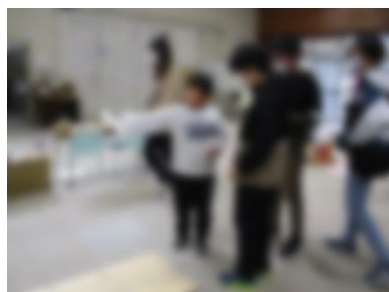
また、個にあった丁寧な指導を行う必要性が読み取れます。すべての児童に「確かな学力」が身につけられるよう、有効な手立てを講じて充実感が持てるような指導に努めていきたいと考えます。

保護者からも、学校での学習理解にある程度満足できているだろうと考えられる結果となっています。特



に家庭学習については、家庭の協力を得て、子供たちが進めていることが推察できます。児童の結果と比較してもそのことがわかります。若干ではありますが、保護者から見ても家庭学習に消極的な児童の存在もうかがえます。今後も家庭へ協力を求めて、児童が進んで取り組むように学校においても働きかけをしていく必要があると考えます。今後も家庭と連携し、協力をいただきながら、学習した内容の定着や発展的な学習につなげられるよう取り組み、学力向上の一助となるようにしていきたいと考えます。

#### (2)【豊かな心】にかかわって (いじめに対する取り組みを含む)



“いじめ”に関わっては、4件が報告されています。前期と比較すると減少してきています。担任の適切な働きかけで大きなトラブルには至っていません。職員が生徒指導の基本を忠実に実践し対応しているからだと思ひます。聞き取りに際しては、相互に対して共感的に児童に寄り添いながら行い、公正な立場で状況を把握し指導を行ってまいりました。大人からしてみると些細なことが原因でしたが、その児童にとっては大きなものだったことを認めながら、今後の人間関係が良好なものになるよう働きかけを行っています。今後も「未然防止」「早期発見」「早

期解決」に重点に置き、児童の様子に注視しながら軽微なものも見逃さず、良好な人間関係づくりに努め、誰もが気持ちよく学校生活を送れるようにしていく所存です。「西小は大きな家族」という理念の下、今後も、全職員がどの児童に対しても温かい言葉かけで信頼関係を築き、心豊かでたくましい児童の育成に取り組んでいきます。

楡形地区小中学校で取り組んでいる「あいさつ」「無言清掃」「靴そろえ」は、その肯定率からみても定着している様子がわかります。「靴そろえ」に関しては、前期よりもさらに肯定的評価が高くなりました。中でも挨拶については、本校でも重視している項目です。その肯定率から、3者とも意識して取り組んでいることがわかります。学校内外において、児童の挨拶がよく聞かれ、その礼儀正しさからも多くの高評価を得ています。しかし「⑨わたしは、無言清掃をしている。」の項目は、-11%となりました。「なぜ無言清掃をするのか。」学校全体の取り組みとしてもう一度、児童に問い意識が高めていきたいと思います。今後も愛校心や自律心、そして一つのことを学校全体で取り組む集団意識の高まりに繋がる取り組みの一つであるので大切にしていきたいと考えます。再度、職員間での共通理解を図り、西小学校の良さ伝統として、職員と上級生が手本を示し引き継いでいかなければならない大切なものだと考えます。

本校児童は、本に親しむことがとても好きです。前期では、80%に満たなかったが、司書中心に図書委員会の児童が放送や読書週間の呼びかけ等を行い、肯定率が80%を上回りました。本を読む楽しさを実感する児童が増えてきているのではないのでしょうか。本に親しむことで、知識だけでなく心も豊かにしてくれます。児童に興味を持てるよう、今後も司書を中心に読書活動の充実に向けて全職員で取り組んでいきたいと思えます。また先にお知らせした、たかが「無言清掃」「靴そろえ」かもしれませんが、意識して行うことで「自律心」「愛校心」「責任感」が育っていきます。この取り組みの工夫を行うこと、なぜこの取り組みが必要なのかという意味合いを児童に伝え、今後も継続して取り組み大切な「心」を育てていけるよう働きかけたいと考えます。

### (3)【健やかな身体】にかかわって

元気に学校生活を送るためには、“早寝”“早起き”“朝ごはん”が必要不可欠です。元気に学校生活を送るために、家庭で朝食を欠かさず準備し、児童もしっかり食べてきていることが結果からわかります。しかし、“早寝”“早起き”に関しては、十分な睡眠が取れていない児童がいることがわかります。高学年になるにつれてその傾向が高くなってきています。学校として取り組んできましたが十分ではなかったと言えます。学校の取組だけで結果を残すことができません。児童に自覚を促し、家庭に協力を求めていることで改善を図らなければならない項目です。児童の学校生活に支障がないようにするだけでなく、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも早急な改善が必要だと考えられます。



普段の児童の学校生活の様子からですが、学年によって人数のばらつきがみえますが、およそ半数の児童は休み時間等に外に出て体を動かしております。汗いっぱいになって体を動かすことを楽しんでいる児童、室内で過ごすことが多い児童と中休みの過ごし方は本人の意思ですが、体力づくりの面からみると体を動かすことの大切さにも目を向けていかなければなりません。新体力テストの結果から、子供の体力低下が明らかになってきています。西小学校の児童においても、種目によっては全国や山梨県の平均値を下回るものもあります。今年度は、縄跳び検定や体育委員会による全校での体を動かす取り組みを行いました。今後も健やかな体づくりにも目を向けて取り組んでいく必要があります。

### (4)【学校・家庭・地域との連携】にかかわって



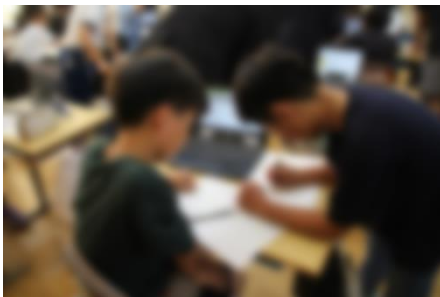
教育活動を進めるには、家庭や地域との連携は必要不可欠です。このことに関わる質問について、保護者からは85%以上の肯定的評価を得られており、連携をとった教育活動がなされていると判断できます。また、「学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。」という項目では、90%以上の肯定的評価を得られています。児童の成長を見守り、児童が安心して学校生活を送れるようにするために、学校は、家庭との距離が近くなるような関わり方をしていく必要があると考えます。



今後も、家庭との連絡、相談、情報提供等を十分に行い、深い信頼関係が結ばれるよう努めたいと思います。それには、学校からの情報発信は必要不可欠です。児童の学校での様子や教師の思いが伝えられ、理解や共感してもらえることで信頼を得られると考えております。担任を含め様々な職員が学校の様子や思いを知らせるための“たより”や家庭への連絡など、家庭との連携が深められるように取り組んでいます。“信頼される学校”づくりのために、より充実した内容を周知していけるように今後も取り組んでまいります。

また、“地域とともにある学校”にするために、地域の人的資源や物的資源を活用し学習活動を進めてきています。西小学校は地域に支えられている学校です。地域を大切に考え、地域に関わってもらいながら教育活動を進めることを目指しています。そのような教育活動ができていることに誇りに感じているところです。これは、また、児童においても地域に誇りを持つことに一役買っています。今後も地域と共に歩んでいけるよう、特色ある西小学校の学習活動として継続できるようにしたいと考えています。

### (5) 【情報端末】にかかわって



携帯電話、スマートフォンなどの所有率は学年に関係なく増加傾向にあります。年度初めの道徳授業参観後の講演会には多くの保護者の皆様に参加していただきました。情報モラルに関して保護者の皆様の意識の高さがうかがえました。だからこそ、トラブルに巻き込まれないため“ルール決め”“フィルタリング”の定着が進んでいるのだと思います。今後も 100%を目指して児童への指導、家庭との連携を継続してまいります。

GIGA スクール構想により、一人一台端末を使用しております。児童は、学習道具として情報端末を扱い、常に身近にある存在となっております。貸与されている情報端末を介した事案を耳にします。学校においては、その啓蒙活動を積極的に進めています。また、本市においても危機意識を高め、セキュリティの面・監視体制を強化している状況です。多くの児童は指導された情報モラルを守っています。